



# やすらぎ

岐阜市民病院公式ホームページ <https://gmhosp.jp/>



## Contents

- 当院医師のご紹介 ..... P1
- AI問診導入のお知らせ ..... P2
- 腎臓病・血液浄化センターのご紹介 ..... P2
- 医療安全推進室からのお願い ..... P3
- 令和5年度の市民公開講座のお知らせ ..... P4
- マスク着用について ..... P4



## 当院医師のご紹介



糖尿病・内分泌内科部長  
黒田 英嗣 医師

平成10年に卒業後、大学病院等で研鑽を  
させて頂き、令和4年4月より岐阜市民病  
院糖尿病・内分泌内科の診療を担当させて  
頂いております。

糖尿病に関する最近の話題についてお知  
らせし、ご挨拶とさせて頂きます。

糖尿病とお聞きになり、どのようなこと  
が思い浮かぶでしょうか。どことなく、負  
のイメージをお持ちになることもあるかと  
存じます。

糖尿病治療は近年向上し、良好な状態に  
保つことで健常者と変わらない生活を送る  
ことができるにも関わらず、必要なサービ  
スを受けられない、就職や昇進に影響する  
など社会的に不利益を被ることが報告をさ  
れています。

社会における糖尿病の知識不足、誤った  
イメージの拡散により、糖尿病をもつ人は  
「特定の属性に対して刻まれる負の烙印」  
※「ステイグマ」にさらされています。

ステイグマを放置すると、

← 糖尿病であることを周囲に隠す

← 適切な治療の機会損失

← 重症化

← 医療費増

← 社会保障を脅かす

という悪循環に陥り、個から社会全体のレ  
ベルまで、様々な影響を及ぼすことになり  
ます。

そのため、日本糖尿病学会と日本糖尿病  
協会により、糖尿病の正しい理解を促進す  
る活動を通じて、糖尿病をもつ人が安心し  
て社会生活を送り、人生100年時代の日  
本でいきいきと過ごすことができる社会形  
成を目指す活動（アドボカシー活動）が展  
開されています。

当科においても日常診療のみならず、皆  
様とともに歩み、お役に立てるよう尽力し  
て参りたいと存じます。御指導、御鞭撻の  
程、よろしくお願い申し上げます。

※社会的偏見による差別



## AI問診の導入について

当院では、これまで内科で先行導入していたAI問診を、令和4年12月1日より一部診療科を除く全科に展開し本格稼働いたしました。

(※対象外：眼科、小児科、精神科、放射線科)

AI問診では、従来、紙で行われていた画一的な問診ではなく、症状等から問診項目をAIが選択します。これにより自身の症状をより正確に医療者へ伝えやすくなります。

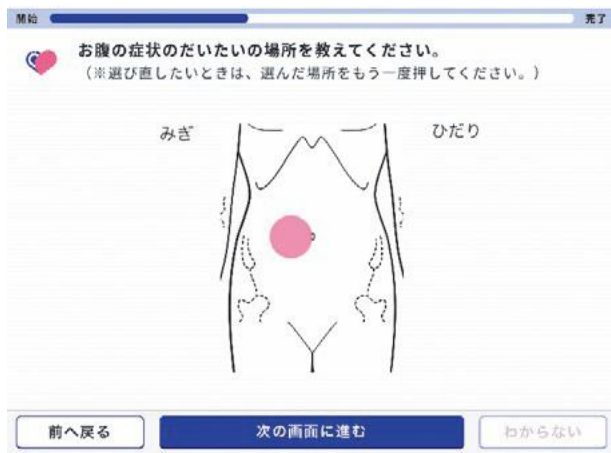
自筆ではなく、タブレットを用いて簡便に入力可能です。また、紹介状やお薬手帳を文字認識スキャンし、診療情報を漏れなく記録できます。

これらは、電子カルテに取り込まれるため、従来、紙問診内容を手作業で入力していた業務が大幅に削減され、診察効率が向上します。その結果、待ち時間の短縮や患者さんと向き合う時間の確保が期待されます。



### ◆ AI問診の例

【問診】  
お腹が痛い、お腹が張る、お腹をぶつけたなどを入力↓刺すような痛み↓Q痛みの強さ↓Qいつから↓Qお腹のどのあたり(左図にマークする)



【問診結果】  
「2日前から右わき腹あたりにキリキリする痛みが突然あり、現在も続いている。」  
このようにカルテに取り込まれます。



## 腎臓病・血液浄化センターのご紹介

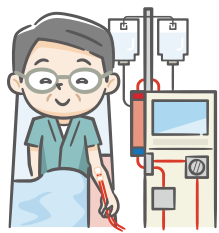
腎臓病・血液浄化センターは、医師、看護師、臨床工学技士が常勤しており、他に栄養士、理学療法士、医療ソーシャルワーカーなどの多職種が協働して、透析を受けられる患者さんの支援を行っています。

透析には、血液透析と腹膜透析があります。

血液透析は週3回、4時間前後で、治療中はテレビ鑑賞などリラックスして過ごしていただいています。治療時間を利用して、ベッド上ストレッチやエルゴメーターを使ったリハビリテーションも行っています。

また食事・水分管理などの悩みと一緒に考えるなど、スタッフとの会話が楽しいひと時となっています。

腹膜透析は、生活スタイルに合わせ、自宅で患者さんご自身が行います。通院は月1回程度で、一か月間の腹膜透析の様子を確認します。



透析患者の方が治療時間を利用してリハビリテーションを行う様子

何よりご自分で頑張って行っておられる姿は、私達も励みになります。  
また昨年は、看護外来で約100名の透析導入前の慢性腎臓病患者さんと面談を行いました。1時間程の時間をかけて、今後の治療を一緒に考えて決定していく場となっています。  
患者さんを中心に多職種によるサポートを実施し、安心安全な治療を提供しています。ぜひお気軽にお声がけください。

医療安全推進室からのお願い

国の統計資料によると、不慮の事故による死亡のうち、転倒・転落死は交通事故死の約2倍となっております。転倒・転落は骨折や頭部打撲など深刻な事態を招く可能性があるのであります。

しかし、疲れや注意力の低下など様々な原因から日常生活の中でも転びやすくなることはあり、

「いつでも、どこでも、だれでも転ぶ」

とされています。

特に療養中は発熱やお薬の影響などで転びやすくなりがちで、その防止は病院の安全において、重要な事項です。

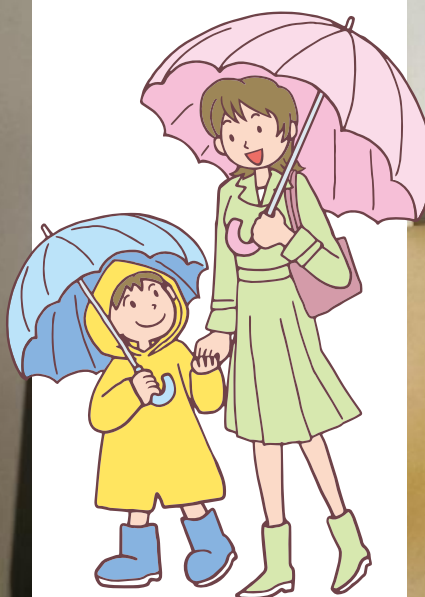


患者さんがご自分の転びやすさを自覚されておらず、ご家族もそれを認識されていない場合は多くあります。

当院では入院時「転倒転落アセスメントスコアシート」を使用して、患者さんの転びやすさを数値化し、その防止に努めております。入院中だけでなくご自宅等でも、転倒防止に向けた行動を取り、転びにくい環境作りに役立てていただければと考えています。

転倒防止という観点から、「歩きやすいはきものを履く」ということは大切です。はきものはすべりにくく、かかとまで覆われた靴をお勧めします。

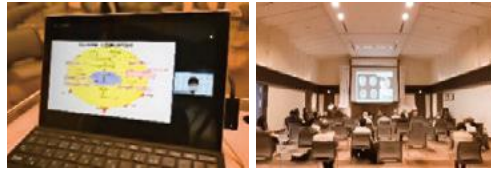
かかとまで覆われた靴  
(かかとを踏まないで履きましょう)



すべりやすい床は転倒の原因になります。雨の日には傘袋をご使用いただくと、安全な環境作りにつながりますので、ご協力よろしくお願いたします。

令和5年度の市民公開講座  
開催のお知らせ

ご好評いただいている市民公開講座を、令和5年度も開催することとなりました。各診療科の医師から直接講義を受けられる機会です。ぜひご参加ください。



市民病院公開講座のお知らせはこちら



今後のスケジュールはこちら



※掲載されている内容は変更される場合があります。今後の開催予定など、市民公開講座の詳細は、当院ホームページ内市民公開講座のページをご覧ください。

マスク着用について

新型コロナウイルス感染症の流行が始まって3年が経過しました。これまでの研究により、原因や伝播様式が判明し感染対策が実施されています。そのような中で、

**岐阜県におけるマスク着用の考え方について**

3月13日以降は、国の「マスク着用の考え方を見直し等について」に基づき、以下のとおり適切な対応をお願いします。

**マスク着用については、個人の主体的な選択を尊重し、着用は個人の判断に委ねます。**

- マスク着用が効果的な以下の場面では、マスク着用を推奨します。
  - 医療機関受診時、高齢者施設、障がい者施設などの訪問時、上記施設における勤務時
  - 混雑した電車やバスに乗る時
  - 重症化リスクの高い方が混雑した場所に行く時
- 以下に該当する場合は外出を控え、やむを得ず外出する際にはマスクを着用します。
  - 高齢者、病などの重症がある場合
  - 脆弱な場合、閉鎖空間に滞在している場合

**事業者における対応**

- 事業者が感染対策上又は事業上の理由等により、利用客又は従業員にマスク着用を定めることは許容されます。
- 事業者は、政府決定の方針に沿って各業界団体が見直しを行う「業種別ガイドライン」を遵守します。

**学校における対応** 4月1日から適用

- 学校教育活動においては、個人の主体的な選択を尊重し、着用は個人の判断に委ねます。
- マスクの着用を希望する児童生徒、希望しない児童生徒の双方に配慮します。

岐阜県新型コロナウイルス感染症対策本部

令和5年3月13日に国の方針が打ち出され、マスク着用については個人の判断に委ねられました。マスクを着用する本来の目的は、会話や咳の際に自分の感染性粒子を飛ばさないようにすること（他者を感染させないこと）、そして、周囲の感染性粒子を吸い込むことがないこと（自分を感染させないこと）です。

新型コロナウイルス感染症においては、発病前の潜伏期間に感染が起ることが知られ、発病せずに無症状のままである方や、軽症の方から感染が広まりやすいことも知られています。これらのことから、岐阜県においても医療機関受診時や高齢者施設等への訪問時にはマスクを着用することを推奨しています。



「周囲の来院患者さんへの感染予防のため」、「お互いに感染から身を守るため」にも、医療機関内でのマスクの必要性をご理解いただき、引き続きマスクの着用にご協力ください。

外来診療のご案内

- 診療科目・・・内科、糖尿病・内分泌内科、脳神経内科、呼吸器・腫瘍内科、消化器内科、血液内科、循環器内科、腎臓内科、小児科、精神科、外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、頭頸部外科、放射線科、麻酔科、病理診断科、臨床検査科、リハビリテーション科、歯科、歯科口腔外科

○休診日

土・日・祝日と12月29日～1月3日

※詳細はホームページでも紹介しています。

<https://gmhosp.jp/>

**新型コロナウイルス対策実施中**



岐阜市民病院広報誌「やすらぎ」のバックナンバーについて

当院では、過去に発行した広報誌「やすらぎ」を市民病院ホームページに掲載しています。過去の「やすらぎ」をご覧になりたい方は、市民病院ホームページ内広報誌「やすらぎ」のページからご覧ください。



岐阜市民病院

〒500-8513 岐阜市鹿島町7丁目1番地

TEL 058-251-1101 (代表)

編集発行：岐阜市民病院 広報委員会